

## 終章

# 国際リユースを理解するために

小島 道一



日本等から輸入された中古ゲーム機のショールーム。  
(シンガポール, 2014年1月 小島道一撮影)

第1章から第9章までの議論をふまえて、複数の章で共通して論じられている点に関して、「国際リユースの背景」「なぜ、エスニック・ネットワークが中古品貿易の担い手となっているのか、販売店の集積がおこるのか」「グローバル化の影響」「国際リユースは途上国にとって有益か」「中古品などの規制のあり方」の5点から整理をしておきたい。

## 1. 国際リユースの背景

国際的なリユースが行われている背景には、輸出側、輸入側のさまざまな要因が影響している。

輸出側先進国では、衣服に典型的にみられるように、流行に合わせた消費がある(第3章)。また、多くの技術革新を伴った新製品が投入されるのが先進国の市場であり、使用可能であっても使用中の製品を買い換えることで、中古品が発生する。日本の車検制度のような安全性を担保する制度や、リースに関する税制なども、使用していた製品を手放し、新製品を購入するタイミングに影響する。また、アメリカでは、顧客へのサービスとして小売店が返品を行いやすくしており、その結果、新品に近い返品が中古品の供給元のひとつとなっている。修理が可能であっても、人件費が高く、修理にコストがかかることも、中古品の供給が増える理由といえる。

輸入側発展途上国、とくに低所得国では、多くの市民が、所得制約により良質の新製品を購入できない。このため、中古品が輸入され、消費、使用されている。消費財によっては、質的に劣り、低価格であるが流行のデザインが得られる新品と、質はよいがデザインは流行遅れである中古品が市場で競い合っている場合がある(第3章など)。資本財についても、中古資本財の利用が少なくない。中古品を利用できる背景のひとつとして、家電や農業機械、自動車などについては、修理にかかる人件費が安く、中古品の供給コストが抑えられていることが挙げられる。また、途上国では、車検など安全性や品質を担保するような制度が構築されておらず、安全性や品質に

関する要求が高くないことも、中古品の輸入の増大につながる。中所得国は、中古品の輸入を行っている一方、先進国のような中古品の供給も観察されている（第7章）。

中古品の貿易の流れは、貿易規制の影響を受け、大きく変化する。環境への配慮、製造業者保護などの観点から貿易規制の対象となりやすい品目だといえる（第1章、第2章、第4章から第6章、第8章、第9章）。しかし、貿易規制の執行が十分でなく、輸入規制を実施したとしても周辺国を通じて、中古品が流入している場合もある（第2章、第4章、第7章）。

## 2. なぜ、エスニック・ネットワークが担っているか、販売店の集積がおこるのか

中古品の国際取引の担い手として、エスニック・ネットワークは無視できない存在である。背景には、輸入国の需要に関する情報が輸出国で得にくいことがある。中古自動車や中古家電の国際リユースでは、先進国と途上国のあいだの中古品の価格の差に気がついた移民などが、ニッチ・ビジネスとして、中古品の貿易ビジネスを始めていることが観察されている（第5章）。古着についても、東アフリカのなかでも地域によって微妙に好みが違っており、先進国から送られてきたさまざまな古着のなかから各地域で好まれている古着を見つけ出すことで利益が上がる構造となっている（第3章）。

また、中古品を取り扱う業者の集積がみられることが少なくない（第6章）。販売店が集積する理由としては、過去のものを含め多様な製品が中古市場で売買されていることが挙げられる。特定の製品を欲しい場合には、販売店が集積しているところに行き手が行くことで、その製品をみつけやすくなる。また、修理部品として、新品でなく中古品を入手することも一般的に行われているが、中古品がストックされている地域であれば、修理部品の入手可能性も高くなる。集積により、買い手が必要としている製品・部品のサーチコストを下げられ、その結果として、販売店側も集積していることで顧客を呼

び込めることになる。

中古品の品質や性能に関する情報の非対称性が存在していることも重要と考えられる。輸出国側と輸入国側、それぞれを親族が経営していれば、低品質のものを高い価格でつかまされるリスクを回避したり、長期的な取引のなかで、損失を相殺することが可能である。また、販売店が集積していれば、同じ製品を複数の店で比較して、品質と価格のバランスを考えながら、購入する製品を決めることがしやすいと考えられる。

### 3. グローバリゼーションの影響

上記の論点は、国際物流コストの低下、インターネットなどによる国際的なコミュニケーションにかかわるコストの低下など、グローバリゼーションの影響を受けている。国際的な物流コストやコミュニケーションに関するコストの低下は、中古品の国際的な取引の拡大につながっていると考えられる。その一方で、集積については、その効果が薄れる可能性もある。中古自動車や中古建機のネットオークションに海外から参加するケースもみられるようになってきている。日本の自動車中古部品市場では、オンラインでの在庫の検索、取引のネットワークができてきており、中古部品販売店が集積するメリットは低下してきた。途上国でもインターネットでの取引や宅配便などの物流サービスが充実してくると集積のメリットが下がってくる可能性はある。

国際物流コストの低下は、製造業者自身が、コアを拠点に集め再製造を国際的に進める動きも生み出している。鉱山用の大型建設機械部品やコピー機などで、このような流れがみられる（第9章）。

### 4. 国際リユースは、途上国にとって有益か

国際リユースは、途上国にとって、どのような意味をもっているのだろうか。

建設機械や農業機械などでは、中古品が資本財に対する投資の初期段階で重要な役割を果たしている（第8章）。また、中古品の修理により、製品の構造を理解し、また、部品の調達ルートの確保することにより、製品製造にかかわる技術を取得する機会ともなっている。また、古着や中古家電製品などの中古消費財は、低所得層の生活水準の向上につながっているといえる（第1章、第3章など）。

その一方で、廃棄物の発生量が拡大し、不適切に処理されたり、廃棄物が処理されずに放置されたりする事態が生じたり、その恐れがあることから中古品の輸入規制を行っている場合がある（第7章、第9章）。また、中古品の安全性の問題が指摘されている。さらに、中古品の輸入により産業発展が影響を受けていると考えられる場合がある（第2章）。そのため、輸入禁止などの措置がとられている。規制の名目としては、WTO/GATTの内国民待遇などの原則に照らして、産業保護を名目として輸入を制限することは難しいと考えられる。しかし、実際には外国投資などが入ったあとに、中古品の輸入規制が導入されるなど、産業保護が輸入規制の本当の目的と考えられる場合もある（第2章、第5章）。

再製造品については、再製造品の生産にともない雇用が生まれるため、また、新品と同等の性能を有する製品がより安い価格で入手できるため、途上国にとっては、メリットが大きいと考えられる。しかしながら、再製造についての認識が十分に広がっておらず、再製造品の原料となるコアや再製造品そのものが、貿易規制の対象品目となっている場合が少なくない（第9章）。

## 5. 中古品などの規制のあり方

前項で述べたような問題に対応するため、中古品の輸入を制限する動きがみられる。中古品の輸入を禁止する国もあるが、中古品の一部の輸入を禁止したり、輸入禁止にはしないものの、安全検査などを厳しく適用することで、実質的に、輸入をしにくくする国もある。

中古品として輸入してからの製品寿命が短く、廃棄された後に適正処理がされない場合、製造年などをもとになんらかの輸入制限を考えるべきであろう。実際に、家電や自動車で、製造から一定の年数以上のものは、輸入を禁止するといった措置がとられている。しかし、新品であれ、中古品の輸入であれ、最終的には廃棄処分に回るため、処理・処分のための施設の整備も必要となる（第7章）。

貿易規制以外にも、さまざまな規制により、中古品の使用や廃棄に関する問題を低減することができる。中古車の安全性や環境対策については、自動車の車検制度の導入（排ガスのチェック、タイヤの摩耗のチェックなど）が適切な政策と考えられる。家電等であれば、安全基準や省エネ基準などを導入することで、安全基準を満たしていない製品や、省エネ性能の劣る製品に絞って規制することが望ましい。

途上国は、中古品に対する安全性や廃棄物の増大などへの懸念に対応しながら、中古品を上手に利用し、市民の生活の向上や所得の拡大をはかることを考えるべきである。